

< もくじ >	
1. 巻頭言—濱口副会長「人老い易く、シニアに成り難し」	1
2. 連続講座第1回の概要と受付のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2~3
4. 各研究会の概要報告	3~6

1. 巻頭言：人老い易く、シニアに成り難し

『なぜ、私の歳を聞くの?』（飛鳥新社）というユニークな視点から年齢問題を提起し続けている本学会員がいる。本田重道さんである。人老い易く、シニアに成り難しも年齢がらみで異論はあるだろうが先送りさせていただき、今は著書の言及に止める。

老いは、生理物理学的特性（普遍性、固有性、進行性、有害性）にもとづき、人を選ばないエイジングプロセスの結果である。老いの回避行動には、心身を整える術や調理法などいろいろな工夫があり、その効果があることはわかっているにしても、エイジングは平等で、善人といえど天網恢恢疎にして漏らさないゆえに、人は老い易いのだ。

生命表上で出生者の半数が生存すると期待される年数を示す男/女の寿命中位数は、1950年 67.22/71.31、1985年 78.06/83.38、2016年 83.98/89.97で、学会がテーマにしている持続可能な超高齢社会の高齢社会化のしっぽをはっきり見て取れる。問題は高齢社会化の高波を被っている本体の心模様である。

シニアに成り難い有様は、「高齢化そんなにくとましいのですか誰もが老いてゆく身というに」（佐々木礼子）と「伸び盛り生意気盛り花盛り老い盛りとぞいわせたきもの」（築地正子）の硬軟2首から推測いただけるのではないだろうか。「裏を見せ表を見せて散る紅葉」は良寛の辞世（1831年）の句と伝えられている。良寛の人生描写は、人の世の哀楽を歌いこんだ上記2首をその昔において包み込んでいた。

シニアに成り難しというなら、その関門をスルーできるパスポートのようなものはあるのだろうか。18歳と81歳を対比して、「自分探しをしている18歳、いつも忘れ物探しをしている81歳」「若さが宝モノと気づかないのが18歳、成人して気づいたけれど後悔ばかりの81歳」他（今井洋子）の洒落に、「前途洋々背筋が伸びている18歳、すっかり背中が丸くなった81歳」「試験にスベルのが18歳、階段で滑るのが81歳」他（島村健次郎）のやり取りがあったことを知った。世代内外の自覚的な社交性、ポジティブな交流が透けて見えるではないか。秘鑰（ひやく）はサードプレイスの効用のすゝめである。

シニア社会学会が提供できるサードプレイスの伸び代にはまだまだ余地がある。その意義と効用をもっと広めたいものである。



一般社団法人シニア社会学会
副会長 濱口晴彦

2. 本年度「連続講座」第1回の概要と受付のお知らせ

連続講座テーマ：「持続可能な超高齢社会 ～安心の未来に向けて～」(計3回)

2016年度まで銀座で開催していた連続講座ですが、今年度は駒澤大学で装いを新たに開催することとなりました。

2018年度連続講座第1回の開催概要をお知らせいたします。お申し込み受付中です。銀座の華やかな雰囲気とは異なり大学キャンパスで行われる講座に、ぜひお気軽にお出かけください。

◆第1回講座は2018年9月8日(土)開催です。

講演者：吉原 毅(城南信用金庫顧問)

慶應義塾大学卒。城南総合研究所を設立。原発即時ゼロに取り組む。「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」会長。

テーマ：反原発と自然エネルギーの将来

■同時上映：河合弘之監督「日本と再生」(短縮版)



(講座要旨)

世界のエネルギー政策の潮流はどこへ向かっているのか、なぜ日本は原発依存体制から抜け出せないのか、自然エネルギーは高くつくという誤解がどこから生じてきたのか、また自然エネルギーに転換することによって日本はどのように変化するのか。これらについて解説し、自然エネルギー化への具体的提案をしたい。

昨年9月にも吉原さんにご講演をお願いしましたが、今回はそのお話の続きになります。

- 1) 日時 2018年9月8日(土) 14:00~16:00
- 2) 会場 駒澤大学 駒沢キャンパス 本部棟 6階中会議室
- 3) 参加費 各回 1,000円(会場にてお支払いください)
- 4) 主催 一般社団法人シニア社会学会

※ オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

※ 第2回、第3回の詳細については、別添チラシをご参照ください。

※ お問い合わせ、受講お申し込みはメール、FAXまたは電話で事務局までお願いします。

電話&FAX：03-5778-4728 eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第26回「シニアのICT活用研究会」開催のお知らせ

1) 日時：2018年9月21日(金) 14:00~16:00

2) 場所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階

<http://dia.or.jp/access>

3) 話題提起者：澤岡 詩野

(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員、当会理事)

4) テーマ：「高齢者が最後までネットを使い続けることの利点と求められる支援」

5) 参加費：500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第5回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日時：2018年9月21日(金) 18:00~21:00

2) 場所：内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ 9階 ラウンジ

3) テーマ：『各人が影響を受けた書籍』を持ち寄って、紹介し合う

4) 参加費：500円

※ お問い合わせは中村(nakamura@jass.jp)までお願いいたします。

(3) 第58回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年9月27日(木) 15:00~18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
 - 3) 報告者：濱口晴彦座長
 - 4) テーマ：「老いのパスポート IV—なぜ『人は老い易く、シニアに成り難し』なのか」
 - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

(4) 第51回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年9月25日(火) 18:30~20:30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館 4階 第4会議室
 - 3) 報告者：柄本三代子(東京国際大学)
 - 4) テーマ：「放射能汚染の食品安全において後景化するつながり
——『二本松で有機農業が続くこと』を实践する人びと」
 - 5) 参加費：当分の間、頂戴しません。
- ※ お問い合わせは、福原 (fukuhara@jaas.jp) までお願いいたします

(5) 第112回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年10月3日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：西下彰俊(東京経済大学教授)
 - 3) テーマ：「岐路に立つスウェーデンの高齢者ケア」
 - 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階
- ※ ご質問がございましたら、佐藤まで。

090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

なお、9月26日は会場の都合で開催できなくなりました。

10月にはもう一度開催の予定です。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第49回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年6月23日(火) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：浅野幸子(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、専修大学非常勤講師)
- 4) テーマ：「地域防災と地域福祉の連携はいかに可能か?—防災福祉コミュニティ構想のその後を検証する」

本報告は、地域の高齢社会化、人口縮小による地域自治体への住民依存の限界、人権意識と地域包括支援体制への関心の高まり、さらに大災害の多発などを背景として、地域防災と地域福祉の連携の必要性への認識が高まり、阪神淡路大震災を契機に被災地から提起された「防災福祉コミュニティ」構想が再評価されている現状を視野に入れながら、地域自治体への過度の依存から脱却して、多様な立場の組織や団体、あるいは人びとがどのように連携して、「地域防災」と「地域福祉」の課題を解決していくことが可能なのかについて考察しようとしている。

そのキー概念の一つが「地域防災ガバナンス」である。戦後の地域防災の歴史的変遷を先行研究(永松伸吾、2008)によって整理し、災害領域における阪神淡路大震災以降の災害ボランティアの登場や、福祉領域でのケアマネジャー、介護サービス事業者の役割の重要性の増大などによって、現代の「地域」が住民のみならず企業やその従業員、NPO、観光客なども含む多様な主体素含む包括的概念になってきていることから、このような地域の「新たな防災ガバナンス」の構築が求められているという問題を提起する。

その上で、現代の「防災福祉コミュニティ」構想の中身を、多くの地域の現状を観察しながら再検討し、新たに拡大しつつある課題を地域のそれぞれの構成主体の条件の違いを考慮しながら整理し、「地域防災」と「地域福祉」の連携可能性を「地域防災ガバナンス」の観点から探ろうと試みている。

今回の報告はその概要説明であり、今後の研究課題や整理方法について質疑応答が行われた。また、報告者自身、年間60～70カ所の地域で防災研修を行っているのでさまざまな事例を熟知しており、それらについて質問者の経験も交えて意見交換が行われた。(長田記)

(2) 第25回「シニアのICT活用研究会」の報告

1) 日時：2018年7月20日(金) 14:00～16:00

2) 場所：ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

3) 報告者：牧 壮

(一般社団法人アイオーシニアズジャパン 代表理事)

4) テーマ：「全てのシニアをインターネットで繋ぐIoTの世界」

牧さんは、故田野原先生の「新老人の会」会員がフェイスブックによる新しい絆作りを推進するSSAの代表であり、この度「全てのシニアをインターネットで繋ぐ」という法人アイオーシニアズジャパン(IoS)を立ち上げられ代表理事に就任されました。

人生100歳時代、インターネット(SNS)はシニアを社会につなぐ絆になるのではないかと、また、認知症であってもICTを活用することで記憶の代わりとなる記録やSNSによって社会との繋がりを維持できると話されました。

シニアフレンドリー社会の構築、世代を超えたコミュニケーションの増大、シニアの持つ力の社会貢献に向けて活動を進めていくということでした。(森記)

(3) 第4回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日時：2018年7月20日(金) 18:00～21:00

2) 場所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ 9階ラウンジ

3) 参加者：柴田、小平、三橋、小川、庄司、若井、寺本、山本、中村、皆川 計10名(敬称略) (男子7名 女子3名)

4) テーマ：「現在、抱えている問題は何か？」

今回初参加の、30年余り勤務した企業を中途退職、現在プロのジャズ歌手をなさっている50代の山本圭美さんの冒頭の自己紹介が興味深かった。ライブステージで共演の演奏者との「インプロビゼーション(即興演奏、アドリブ)の醍醐味と難しさ」という、面白い内輪話でした。

テーマについての議論は、最長老の柴田さん(80歳)から「地域のボランティア活動を通じて感じるのは、活動への意識も世代間で変化しており、今後は徐々に無償から有償に移行していくのではないかと」「日本の社会保障制度そのものが、そう遠くない時期に一気に崩壊していくリスクを強く危惧している」との発言を機に、ボランティア論、世代間ギャップ・価値観論が真剣に論議された。

ITや科学技術が進む現代、世代間ギャップはどうか?小平さん(60代)は「今の若い世代は生きる力、自分なりに工夫する力・知恵が足りないのではないかと」「便利さをどう受け入れるか」の問題だが、自動車の設計技師であった三橋さん(70代)が「自分が入社した当時は、もちろんITなどなく、紙と鉛筆だけから始めていた。どんなに時代が変わっても、まず“人間の手”でやってみることが肝心。車の新しい進歩は、自動運転だけですよ」と警鐘の一言。

このように「各自が考えている問題点」についての熱弁が続いた最後に、参加者全員がこのライフプロデュース研究会が自分にとって、「どんな存在であり、どんな位置付けにあるか」を発言することになった。

- 自分の“老いづくり”を模索している。毎日、考えることが多くなった。「老い上手」になることをこの場の皆さんを通して心掛けたい。
- ここでは何でも言える、分かって貰える、私の“居場所”です。
- 先が見えて来た。充実した時間、生き方をしているか？一日の時間の使い方（メリハリ、アクセント）を皆さんから聞きたい。
- 過去様々な経験をしてきたが、ここはそれらを「整理する場」と考えている。

残念ながら全員の声を載せることはできないが、わがライフプロデュース研究会員の専門領域や世代間の幅広さ、会への熱い想いや月例会の自由で真剣、かつザックバランな雰囲気をご理解頂けると嬉しく思います。この会の詳細は、ブログをお読み願います。（皆川 記）

(4) 第111回 社会保障研究会

- 1) 日 時：2018年7月25日（水） 18:00~20:00
- 2) 講 師：込山愛郎（厚生労働省老健局 振興課長）
- 3) テーマ：「平成30年度介護報酬等改訂について」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋 I SPタマビル 8階

少子高齢化の進行、要介護高齢者の増加、要介護認定者の増加、サービス利用者の増加により、今日、医療と介護の一体的な改革が欠かせない。重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることを狙いとする地域包括ケアシステムを構築するために、平成30年度の介護報酬改定では、①地域包括ケアシステムの深化・推進、②医療・介護の連携の推進、③地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進が目指されている。

高齢者、障害者、子育て家庭、生活困窮者などを包摂した地域共生社会を実現するために、市町村には住民の地域福祉活動への参加を促進し、住民主体による多様な支援活動を推進することが期待される。医療・介護の連携や地域共生社会を実現するうえで要となるのはケアマネジャー、とりわけ主任ケアマネであり、ケアマネの質の向上が求められる。今後の課題の一つには、AI、ICT、ロボットの活用があり、AIによるケアプランの作成が試みられている。

膨大な資料を駆使し、今回の医療と介護の同時改訂の必要性とその目指すところが丁寧に説明された。地域包括ケアシステムの実現は、つまるところ、まちづくりであり、いわゆる社会的弱者を排除することなく共に生きていくコミュニティの実現が究極の目的であることがよくわかった。

参加者からは、個別ケースの対応で手いっぱいケアマネにそれほど多くのことが期待できるのか、主任ケアマネといっても一定の研修を受けるだけで認定試験があるわけではないので、質の担保ができるのか、ターミナルケアにおけるケアマネへの加算の可能性やそれを介護保険の中でどう評価するのか、要介護認定における地域差（西高東低）の原因は何かなどの疑問が出された。地域差については、お守り的に要介護認定をとっておくという地域性もあるのではという回答であった。また、訪問サービスにおける排泄ケアにも加算をしてほしいという希望もあった。（袖井孝子 記）

(5) 第57回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年7月26日（木） 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場 4階 第6共同研究室
- 3) 報告者：安田和紘（研究会コーディネーター）
- 4) テーマ：冊子『老いのパスポート』企画の提案と討議

安田さんの報告は、配付資料「研究会メモ『老いのパスポート』」に沿って行われた。まず、「老いのパスポート」の概念については、シニアになるための「証明書」であり「権利書」であると共に「関門」の3つがあるとした。研究目的としては、「老い」とは、「老いた人」とは何であるのかを明らかにする。そして「老い」が突きつける課題を解決し、最終的には、実践に結

び付ける方策を提案する。研究方法として、3案が提示された。A案は文献、観察や体験を通じて得た知識を基に考察を加えて答えを導く。B案は「老いのパスポート」について、既刊の文学作品を素材に探求する。C案は「18歳と81歳の対句」、「川柳」、「雑俳」など短詩文芸作品を手段として、ユーモアたっぷりに、時に風刺を利かせた視点から答えを導きたいと提案された。

濱口座長はコメントとして、「サードブレイス」という考え方及び持続可能な高齢社会に対して、「フィロソフィー」を持つことが大切であると述べられた。(島村記)

(6) 北海道部会からのお知らせ

今年度から当部会では、これまでの“シニアに自立を促す”から、“シニアが現在を生き抜くを応援する”へと舵を切り、3~4か月に1度、A4一枚裏表の「自分らしく生き抜く」(通信)を、他の団体と共同で編集委員の仲間として発行することにしました。今回は、“ITに慣れよう”がテーマです。昨年6月開催の市民講座参加者200名を中心に、1000部を上回る部数を無料で送付しています。

※ なお、部会通信“ITに慣れる”を添付しますので、ご一読下さい。

(北海道部会顧問 竹川勝雄)

《お願い》会員のみなさまにおかれまして、会員情報(メールアドレス、登録住所等)に変更がありましたら、速やかに変更のご連絡をお願いいたします。

毎月お送りしているJAAS Newsが不達になり、必要時のご連絡が途絶えますので、ご協力のほどをお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール:jaas@circus.ocn.ne.jp URL:<http://www.jaas.jp/>